

1.3 SSH国語（国語分野）

(1) 研究開発の課題（概要）

昨年度までに1年生普通科全員を対象に、論理的文章を読解し、要約する方法、論文の書き方について理解させるためのカリキュラムを作り上げている。今年度は、昨年度実施したSSH国語のカリキュラムを踏襲しつつ、夏休みに課題研究として調べた内容を論文にまとめさせた。

(2) 仮説（ねらい、目標）

- ・科学的な内容を中心とした論理的文章を読解し、要約する力を養成する。
- ・論理的文章の書き方についての知識を習得し、自分の意見をまとめる力を養成する。
- ・他者の書いた作品を読み、相互評価することで視野を広げる。

(3) 研究の方法・内容

ア 対象生徒

普通科1年生 8学級 323名

イ 日程・内容

学期	時間	内 容
一 学 期	1	1 原稿用紙の使い方
	2	2 テーマ型小論文を書く
	3	「私の東西論～山崎正和『水の東西』をモデルとして東洋と西洋の間で文化的な差異が感じられる例を一つあげ800字以内で書きなさい。」
	4	相互評価・自己評価
二 学 期	5	3 資料の収集について
	4	4 課題研究の進め方
三 学 期	6	5 課題研究論文執筆～論文執筆の基本
	7	
三 学 期	8	6 執筆論文を読む
	9	相互評価・自己評価
	10	7 課題研究発表会

ウ 実施場所

本校 各教室

(4) 検証（結果と反省）

ア 事後アンケートの結果から

山崎正和「水の東西」を参考に、「私の東西論」と題して小論文を執筆。テーマを決め、東と西でどのような差異があるか比較・検討し、800字以内の小論文にまとめた。その小論文をグループに分かれて読み比べし、相互評価・自己評価を行った。その結果から検証する。

「対比の論理について理解が深まったか」 はい…97.3% いいえ…2.6%

「自分でもこの論理が使えるようになったか」 はい…87.8% いいえ…12.2%

イ 生徒の感想から

- ・班の人の感想を読んで自分の小論文の良い点・悪い点がわかった。他の人の小論文も、同じテーマのものでも人それぞれ、考え方も視点もあるんだと気づいた。
- ・自分の頭ではいいたいことがわかっているのに、うまく表現できないもどかしさを感じた。
- ・対比することで良いところ・悪いところがよく見えた。また書いていると自分の中で整理できた。
- ・他の人の書く小論文は着目するところも違い、おもしろかった。

- ・論文の書き方の基礎が分かった。
- ・対比の論理を使うことで、自論を展開しやすかった。
- ・いろいろな意見に触れられてよかった。
- ・人によって読みやすい文と読みづらい文があったが、簡単な言葉と単純な論述をしている人ほど良い文章だと思った。
- ・他の人のすっきりした言いまわしや接続を見習いたい。
- ・あまり違いはないと感じたのに、対比してみると意外と多くあった。
- ・先に結論をしっかり構成すればよかった。
- ・事実を並べるだけになってしまった。
- ・今度は読みやすい文にしたい。
- ・次回書く時にはもっと時間をかけて書きたい。

ウ 今後の実施に向けて

- ・自分が書いた文章だけでなく、他の文章を読むことで、客観的に自己評価できたように思う。加えて「このような考え方もできるのだ」という新鮮な発見もできたと同時に、自分以外の人を持つ視点にも触れることができ、視野を広げること

に奏功した。
また文章の記述だけでなく、グループ討論や発表、論文の回し読みなど様々な言語活動の結果、生徒がいきいきと主体的に活動している姿が見られた。たいへん有意義であったので、今後もこういった機会を増やすことをしてもよいのではないと思われる。

- ・小論文執筆を経て、冬休みには論文を執筆させたが、その自己評価・相互評価は今後行う予定である。基礎的な小論文の書き方、資料の収集方法、論文の執筆方法と、段階を追って学習した成果を、どのように評価するのかを分析したい。